

陸上競技（短距離）プログラム報告 2016年7月23日（土）中村 泰雄

1999年、浦和レッズが二部に降格した同じ年に、浦和レッズを元気づける意味も有ってか、浦和レッズのチームカラーでもある鮮やかな赤い色のバラの育種を始めた人が居ました。与野市《現さいたま市》出身の河合伸志氏です。11年後に新種のバラの作出に成功した河合氏はそのバラに『浦和レッドダイヤモンドズ』と云う名前を付けました。

今日のウォーキング中の植物観賞はこのバラを見てもらいました。そうです、このバラは福祉村でも咲いているのです。

配布プリントもこのバラで作りました。B5の用紙を縦に使い、その上辺にタイトル、その下にこの花の画像を貼り付け、その下から始まる記事では、花の色が浦和レッズのチームカラーを思わせる鮮やかな赤であること、四季咲きで、春から秋まで繰り返し開花し、花もちも良く、耐病性にも優れた力強いバラで、花言葉は『誰からも愛される、強い、忍耐』だと云う事などを書きました。

磯野コーチ指導の準備運動が終わるのを待って、私は問題の紅バラが咲いている現場に向かいました。現場はウォーキングコースが新川を渡るふれあい橋の先、コースのインサイド沿いに建つログハウスの裏口から出て、噴水池に向かって30mほど歩いた所に在る花壇です。つまりログハウスの前でウォーキングコースを離れる必要がるわけです。そこで私はログハウスの前で集団を待ちました。

待つほどもなく集団が到着しました。当然です。ウォーキングのスタートポイントからここまでは200?も有りません。集団は直ぐに到着したばかりでなく、ばらけても居ませんでした。

早速集団を花壇に案内してプリントの補足説明です。このバラの育種が浦和レッズが二部落ちした年（1999年）に始まったことに触れた時、お母さんの一人から『この子もその年の生まれです』と云う発言が有りました。また『浦和レッズの行事には、良くこの花が飾られるようです』とやった時には、サッカーのアスリートの一人から『二回見たことが有ります』と云う反応が有りました。この反応の多さは浦和レッズの地元ならではと云う事でしょうか。こうして豊かな反応に恵まれた花の鑑賞を五分程で終え、再スタートしてもらいました。

ウォーキングの後は2000m、800m、400m、を各一本と50mを三本走り、磯野コーチ指導の整備運動の後に、十二時丁度にKY君のリードでSON 埼玉のエンールを叫んで、蒸し暑いプログラムをメました。